

【計画名：北九州ミュージアムパーク創造事業地域計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R2			R3			R4		R5		R6	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
来訪者数(観光客数)(万人)	36	17.9	50%	72	集計中	—	90		150		200	
来訪者数(観光客数)【外国人】(人)	3,500	95	3%	4,000	13	0%	7,000		8,750		10,500	
来訪者の満足度(%)	—	—	—	65	83.3	128%	70		75		80	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化していることや、令和4年度にオープンする北九州市科学館への統合準備のため閉館した施設があること等により、来訪者数(観光客数)【外国人】に関する目標は、目標値を大きく下回っている。なお、「来訪者数(観光客数)」については北九州市観光動態調査の結果を用いているが、集計中(例年、9～10月頃に公表)。 連携企画展や既存展示の磨き上げ事業等が好評だったため、来訪者の満足度については目標値を大きく上回った。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 来訪者数(観光客数)に関する目標については、当面は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けると思われるが、満足度は高い水準にあり、概ね目標を達成できたと考えている。感染症の動向を踏まえながらではあるが、今後は、「これまで訪れていない層」の取り込みと、より丁寧な現状把握・改善による満足度のさらなる向上に取り組む必要がある。

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R2	R3	事業類型毎の実績額
事業1-①	「いのちのたび博物館」の展示空間の拡充事業(新時代の博物館への進化)	大規模リニューアルの準備(課題抽出、検討作業)・デジタルネイチャーアート展の開催準備を実施	大規模リニューアルの準備(基本計画の策定)・デジタルネイチャーアート展を開催	12.1 百万円
事業1-②	新科学館整備事業	施設の開業に向けた準備を実施(設計、工事等)	施設の開業に向けた準備を実施(設計、工事等)	
事業1-③	複数の構成施設等による連携企画展やイベント事業	連携企画展の開催に向けた準備を実施	連携企画展を開催(春・秋の2回)	
事業1-④	体験型イベント事業	—	—	
事業1-⑤	産業観光・工場夜景を活かした新たな観光メニュー開発事業	夜景観賞ツアーバスの運行	ツアーバスの運行、Instagram フォトコンテストを実施	
事業1-⑥	収蔵史料等(コレクション)のデジタルアーカイブ化事業	データベースの構築作業(写真撮影等)を実施	データベースの構築作業(写真撮影等)を実施	
事業1-⑦	学芸員の人材育成及び人材確保事業	事業への参画を通じた人材育成を実施	事業への参画を通じた人材育成を実施	
事業2-①	地域における回遊促進を図るスマートモビリティの実証運行事業	実証運行の準備を実施(体制整備、関係者協議等)	実証運行(フェーズ1)を実施	3.4 百万円
事業2-②	広域に分散する文化観光施設群間の回遊促進事業	シャトルバスの試験運行の準備を実施(警察協議等)	シャトルバスの試験運行を実施	
事業2-③	誘導案内表示等の拡充事業	延期	新科学館の開館に向けた誘導表示の検討を実施	
事業2-④	東田地区インフォメーションセンター構築事業	—	センターのあり方について検討を実施	
事業2-⑤	I C Tを活用した利便性向上策の導入事業(キャッシュレス等)	延期	施設のキャッシュレス化等に関する検討を実施	
事業2-⑥	展示情報等の多言語化事業	環境ミュージアムの展示情報の多言語化を実施	施設(博物館、環境ミュージアム)の多言語解説を継続実施	
事業2-⑦	国内向けボランティアガイドスタッフの育成事業	延期	延期	
事業3-①	「ミュージアムパーク+1(プラスワン)」事業	皿倉山頂でのレーザーショーを実施	皿倉山山頂展望台イルミネーション実証実験を実施	4.3 百万円
事業3-②	インバウンド向けガイド付き周遊ツアー事業(「学ぶ」×「楽しむ」)	基礎情報収集を実施(留学生によるモニターツアーの実施)	基礎情報収集、ガイド育成を実施(ネイティブガイドの実施)	
事業3-③	国内向けガイドツアー事業	延期	延期	
事業3-④	宿泊施設や交通事業者と連携した集客促進事業	—	—	
事業4-①	ミュージアムパーク情報発信事業(効果的な広報・PRの実施)	ホームページによる情報発信を実施	ホームページによる情報発信を実施	自己予算のみ
事業5-①	「いのちのたび博物館」の展示空間の拡充事業(新時代の博物館への進化)	既存展示の磨き上げ(視認性向上のための改修等)を実施	既存展示の磨き上げ(視認性向上のための改修等)を実施	7.3 百万円
各年度ごとの実績額→		4.7百万円	22.4百万円	27.1百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業1-①では、いのちのたび博物館の大規模リニューアル(令和4年度予定)に向けた準備を着実に進めることができている。事業1-②の新科学館の整備も順調に進んでおり、新たな大規模商業施設のオープンとあわせ、東田エリアの魅力向上が期待される。 事業2-①、②、③では、アフターコロナにおける観光需要の回復に備え、来訪者の利便性の向上に関する取り組みを実施した。周遊バスの実証運行では、新たな交通手段の有用性を評価する意見は一定数あったが、運行形態(頻度、停車先)や料金設定(有料運行)、既存の交通事業との調整など、事業化に向けて検討が必要な課題が残っている。 事業5-①により実施した博物館内の既存展示の磨き上げ(視認性の向上等)については、アンケートからも概ね高い評価を得ており、来訪者の満足度向上につながっている。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響等のため、地域計画の掲載事業のうち一部は未着手である(2-⑦、3-③等)。 各年度の事業については、「コロナ禍で実施可能な手法への変更」等は発生したが、概ね計画どおり実施できた。
--

⑤ 拠点施設の要件に関する取組状況

	↓文化観光拠点施設名	
要件	北九州市立自然史・歴史博物館	北九州市科学館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・自然史ゾーン、歴史ゾーンそれぞれにおいて、来館者が楽しく学ぶことができる展示を実施している（詳細は地域計画P20、21）。 ・あわせて、施設更なる魅力向上のための大規模な展示リニューアル（令和4年度予定）に向けた準備を計画的に進めている。 	
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイル端末等で見ることでできる展示解説（館内の無料Wi-Fiを活用）や固定型情報検索装置を活用した解説を実施している。 ・「新時代の博物館」の実現に向けて、博物館展示の新たな可能性を探るため、現代アートとデジタル技術を活用した企画展「デジタルネイチャーアート展」を開催した。 	
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・展示物の解説を4ヶ国語（日、英、中、韓）の文字情報及び音声で実施している。また、3ヶ国語（英、中、韓）対応の音声ガイドの無料貸出しを行っている。 	
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・市、観光事業者、地元関係者、商工団体、学識経験者などで組織した「東田ミュージアムパーク実行委員会（以下「実行委員会」という）」を基盤とし、多様な関係者の知見を取り入れながら事業に取り組んでいる。 ・市内の企業ミュージアムや地元商店街等と連携した企画展を定期的で開催するなど、多様な主体との連携を進めている。 	
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市産業経済局（観光課）が実施する「北九州市観光動態調査」の提供を受けるとともに、双方向での情報交換を行っている。 	
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びK P Iの設定・P D C Aサイクルの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会を基盤とし、地位計画に掲げるK P Iの実現に向けた事業の企画・実施・振り返り等を行っている。 	

開
館
準
備
中

⑥ 観光関係者（DMOなど）からの評価

・実行委員会には市の観光セクションや民間の観光事業者も参画しており、適宜意見交換をしながら取り組んでいる。

・観光分野への新型コロナウイルスの影響は極めて大きく、市の観光動態調査によると、2020年度以降、東田地区を含め北九州市を訪れる観光客数は大きく減少している。

・本事業は2020年11月から開始しており、当初よりコロナ禍の影響を大きく受けている。これまでの2年間は、アフターコロナにおける観光需要の回復に備え、施設の大規模リニューアルやツアー開発など、地域計画の掲載事業の中でもコンテンツの充実に関するものを重点的に実施している。引き続きしっかりと取り組んで行く。

（評価者：一般社団法人日本旅行業協会九州支部）

⑦ 今後の改善の方向性

・当面は新型コロナウイルス感染症の影響が続くと思われるため、実施可能な形態を検討しつつ、観光需要の取り込みに向けた事業を進める。また、アフターコロナにおいても、コロナ禍の経験による観光客の意識変化等が予想される。幅広い情報収集に努め、今後の事業に活かしていきたい。

・アンケート調査については、満足度や施設の強みの把握だけでなく、改善が必要なポイント等についてきめ細やかな分析ができるよう、実施方法（項目、調査対象等）について検討のうえ実施する。